

第93回

事前参加登録制

【開催地】

国立オリンピック記念  
青少年総合センター

【参加登録】



04.01 水

04.20 月

# 医学教育 セミナー & ワークショップ

2026 春

06.05 FRI

06.07 SUN

Seminar

06.06 土 13:00▶14:30

限界・成長・熟達を問い直す  
—スポーツと医療者教育のクロストーク  
講師：為末大（元陸上選手）



ML

MEDPark（メドパーク）

06.06 土 14:30▶16:30

AI時代の大学改革—教育と業務のリデザインを考える

座長：西城卓也（MEDC）  
講師：徳安達士（福岡工業大学） 森木銀河（会社員/gmoriki代表）

ML

MEDStudio（メドスタジオ）

Part1  
06.06 土 09:00▶12:00  
Part2  
06.07 日 09:00▶12:00

隣の教育実践を聴いてみよう！

企画：早川佳穂・高橋美裕希・木原美波・川上ちひろ（MEDC）  
伊藤亜子（岐阜大学） 福島麻悠子（みどり病院） 福田安代（東海中央病院）

TL

Workshop

06.05 金  
13:00▶16:00

WS-①

あなたのフィードバックは届いていますか？—関係性から見直す教育実践—  
吉田暁（新潟市民病院） 岡崎史子（新潟大学） 大戸敬之（鹿児島大学病院） 三好智子（京都大学） 芳野純（帝京平成大学）  
船越拓（名古屋市立大学）

A

WS-②

IPEの新しい視座：IPSが教える専門職連携のヒント  
下井俊典・諏訪さゆり・酒井郁子・孫佳茹・齊藤可紗（千葉大学）

TL

WS-③

コミュニケーション・SDH教育に「やさしい日本語」を活用する  
武田裕子・イ・ティンザ・キン（順天堂大学） 岩田一成（聖心女子大学） 新居みどり（NPO法人国際活動市民中心） 石川ひろの（帝京大学）  
岡崎史子（新潟大学）

TL

Workshop

06.06 土  
09:00▶12:00

WS-④

多様性を促進する医学科入試とは：英国とオランダの事例から学ぶ  
大滝純子（東京医科大学） 鈴木康之（岐阜大学） 渡邊洋子（新潟大学） 恒川幸司（名古屋市立大学） 武田裕子（順天堂大学）  
西城卓也・野村理（MEDC） 平形道人（慶應義塾大学）

A

WS-⑤

患者の視点を取り入れた医療安全教育手法を体験しよう！  
田中和美・岸美紀子・渡辺恵（群馬大学） 清水郁夫（千葉大学）

TL

WS-⑥

Step-by-Stepで学ぶ生成AI教材作成と、理論で深める新しい教育のカタチ  
安原大生 海透優太（JCHO若狭高浜病院） 笠井大（千葉大学） 土井賢治（横浜市立みなと赤十字病院）

TL

Workshop

06.07 日  
09:00▶12:00

WS-⑦

それは「学生の問題」か？—アンプロを生む教育環境と構造的課題を考える—  
岡田英理子（東京科学大学） 岸美紀子（群馬大学） 高橋誠（北海道大学） 西屋克己（関西医科大学） 小松弘幸（宮崎大学）  
連沼直子（広島大学） 大槻真嗣（藤田医科大学） 長谷川仁志（秋田大学） 岡崎史子（新潟大学） 宮地由佳・西城卓也（MEDC）

ML

WS-⑧

1コマからできる授業設計—インストラクショナル・デザインを用いて—  
石原慎・村岡千種（藤田医科大学） 浅田義和（自治医科大学） 万代康弘（東京慈恵会医科大学）

CD

WS-⑨

マインドフルネスで育むプロフェッショナリズム教育実践大会！  
土屋静馬（昭和医科大学） 三好智子（京都大学） 三原弘（札幌医科大学） 毛利貴子（奈良県立医科大学）

CD

次回 【開催日】 2026.10.10 ▶ 10.11 【開催地】 東北大学

\*記号（TL等）はアソシエイト認定のための学習領域を表しています。詳細はMEDCのホームページをご覧ください。



医学教育共同利用拠点  
岐阜大学医学教育開発研究センター

MEDC medc@t.gifu-u.ac.jp



## 限界・成長・熟達を問い直す—スポーツと医療者教育のクロストーク

近年、医療現場および医学教育の現場では、働き方改革による時間制約、教育・指導負担の増大、学習者のモチベーションや成長実感の希薄化など、複合的な課題が顕在化しています。MEDCでは、こうした課題に対し、「人はどのように成長し、熟達していくのか」という根源的な問いに立ち返ることの重要性を提起します。為末大氏は、トップアスリートとしてのご経験に加え、引退後も人の成長、熟達、限界、コーチングといったテーマについて、スポーツの枠を超えた普遍的な視点から発信を続けておられます。本企画では、為末氏のご講演と医療者教育関係者とのクロストークを通じて、スポーツと医療者教育という異分野を往還しながら、これからの人材育成・教育の在り方について参加者とともに探りたいです。

講師：為末大（元陸上選手）

アソシエイトポイント：ML 0.25

## MEDPark（メドパーク）

6月6日(土) 14:30-16:30

### AI時代の大学改革—教育と業務のリデザインを考える

今回の教員職員が一堂に会するセッションであるMEDParkでは、生成AIを話題に取り上げました。生成AIの急速な普及は、医療系大学における教育や日常業務のあり方を大きく変えつつあります。いま求められているのは、新しいツールを導入すること自体ではなく、AIによって何が効率化され、何が新たに可能になるのかを見極めながら、人が担うべき判断や対話、責任のあり方をあらためて問い直すことです。医療系大学では、学生がAI時代に必要な力を身につけることに加え、教職員自身もAIを適切に活用し、教育や業務をよりよく支えることが求められています。その一方で、現場には期待と不安、利便性への注目と慎重な姿勢が併存しており、AI活用をめぐる議論は、理念か実務か、教育か業務か、という二項対立に傾きがちです。MEDParkは、こうした課題を教員だけ、あるいは職員だけのものとして切り分けるのではなく、教職員双方が集い、それぞれの立場から実践や課題意識を持ち寄りながら、ともに考える場です。だからこそ本パネルでは、AI活用を単なる便利な道具の話としてではなく、教育の質、業務の質、そして教職協働のあり方を問い直す契機として捉えたいと考えています。そのうえで本企画では、まず教育の側面から、AIをどのように学びに位置づけ、学習支援や教育設計のなかでどう活用していくのかという論点に目を向けます。続いて、日常業務の側面から、AIを実際の業務改善や働き方の見直しにどう結びつけていくのかを考えます。教育と業務は本来切り離せるものではなく、両者を往還しながら考えることで、医療系大学におけるAI活用の現実的な方向性がより鮮明になるはずですよ。お二人の実践から、AI時代の大学のこれからのを皆さまとともに展望したいと思えます。

座長：西城卓也（MEDC）

アソシエイトポイント：ML 0.25

#### セッション1

### AIの利活用と医療系教育の再考—教育の構造化と可視化：失敗から育つ判断力—

講師：徳安達士（福岡工業大学）

生成AIの急速な進展は、医療系大学における教育の在り方に本質的な問いを投げかけています。AIは膨大な情報を即時に提示し、学生が自らの知識を補充・整理・要約するうえで有効なツールであり、学習効率の向上に寄与します。しかし一方で、AIあくまで知識獲得を支援する手段に過ぎず、臨床現場で求められる知識の運用能力や責任ある判断力を自動的に育成するものではありません。本講演では、AIの利活用を前提としつつ、医療系教育を「構造化」と「可視化」の観点から再考します。学習者本位の学習スタイルへの転換を基盤に、アクティブラーニングを通して学習の主導権を学生に委ねる教育設計を提示します。さらに、教育の構造を可視化することで、AI時代における教員の役割を見直す契機としたいです。安全に失敗できる環境で挑戦と内省を重ねることにより、知識を社会で運用できる判断力をいかに育むか。その問いを、皆様の現場に持ち帰っていただく機会としたいです。

#### セッション2

### 「まず使ってみる」から始まる大学AI活用—事務職員の現場から見えること

講師：森木銀河（会社員/gmoriki代表）

生成AIの急速な普及に伴い、大学においても教育・研究・事務の各領域でその活用が模索されています。しかし現場では、AIを日常的に使いこなす層とまったく触れていない層の間に大きな溝が生じており、「よく分からないから使わない」という判断が固定化しつつあります。本講演では、元大学事務職員として複数大学の生成AI研修・導入支援に携わってきた経験をもとに、AIリテラシーの基礎と社会動向を概観したうえで、業務における具体的な活用事例を紹介します。効率化の恩恵だけでなく「AIで仕事が増えた」といった現場の声にも触れ、真に有効な活用とは何かを考えます。さらに、教員と事務職員が互いの業務を理解し協働することで生まれる可能性についても提起したいです。参加者が講演後に「まず一度使ってみよう」「ガイドラインを読み直そう」など、具体的なアクションを一つでも持ち帰れる場を目指したいです。

## 隣の教育実践を聴いてみよう！

本企画は、医学教育共同利用拠点の新たな取り組みとして始まる**MEDStudio** (メドスタジオ) です。全国のさまざまな現場で行われている教育実践を持ち寄り、互いの工夫や悩み、手応えを気軽に共有しながら学び合う場をつくりたいと考えています。必ずしも完成された実践だけではなく、試行錯誤の途中にある取り組みも含めて紹介いただき、参加者どうしで率直に語り合える時間になりたいと思います。

今回のテーマは「あなたの教育実践」です。普段なかなか知ることのない他機関での教育実践に触れ、意見を交わすことで、自分たちの実践を少し違った角度から見つめ直すきっかけを得ることを狙いとしています。それぞれの現場に合った改善のヒントや、新たな発想、今後のつながりを見いだせる場になればと考えています。

アソシエイトポイント：TL 0.25  
(両日参加で0.5)

### Part1 6月6日 (土) 9:00-12:00

- 1-1 大都市圏の大学が挑戦するLIC～「統合された (=Integrated) 実習」って何？～  
野平知良 (東京医科大学 医学・看護学教育推進センター)
- 1-2 「教材置き場」から「学習履歴データベース」へ：LMSとしての基本的利用を超えたMoodle活用検討  
浅田義和 (自治医科大学)
- 1-3 「自組織の協働」の質を上げる教育設計と実践  
児玉慎吾 (社会福祉法人 藤花会)
- 1-4 初期臨床研修医に対する教習手帳を用いた麻酔科研修の試み  
鴨田知明 (新潟大学医歯学総合病院麻酔科)
- 1-5 臨床推論・身体診察・検査の統合を目指した臨床実習カリキュラムの再構築—糖尿病内分泌・腎臓内科における「教官を教材とした模擬症例」の試み—  
山原康佑 (滋賀医科大学 医学・看護学教育センター)
- 1-6 医学科低学年の留年生に対する学修支援 ～コーチングをベースにした学修支援～  
山田圭 (久留米大学医学部 医学教育研究センター)

### Part2 6月7日 (日) 9:00-12:00

- 2-1 救急救命士養成カリキュラムへの「看護学」の統合：現場の高度化と役割拡大に対応する対人援助能力の育成  
久保田千景 (鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部 救急救命学科)
- 2-2 健康格差を解決する医師を養成する、地域医療教育に社会科学を導入する試み  
水間喜美子 (鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 離島へき地医療人育成センター)
- 2-3 看護学部『リハビリテーション論』の授業風景～講義・ディベート・共同学習・技術演習を融合して～  
山田隆子 (姫路大学看護学部)
- 2-4 呼吸循環リハビリテーション領域における理学療法士向け大学院講義の設計：インストラクショナルデザインに基づく実践  
磯邊崇 (昭和医科大学保健医療学部リハビリテーション学科)
- 2-5 医学生の地域志向性を育む教育デザイン：MieGP12と紀南合宿の実践から見たもの  
向原 千夏 (紀南病院附属あたわ在宅診療所)

## あなたのフィードバックは届いていますか？－関係性から見直す教育実践－

吉田暁（新潟市民病院） 岡崎史子（新潟大学） 大戸敬之（鹿児島大学病院） 三好智子（京都大学） 芳野純（帝京平成大学）  
船越拓（名古屋市立大学）

学習者にとって、指導者から受け取るフィードバックは臨床現場での成長を左右する重要な機会です。もちろん「伝え方」は大切です。しかし、そのフィードバックが前向きに受け入れられるかどうかは、伝え方だけでなく、指導者と学習者の関係性が大きく影響します。信頼があれば短いひと言でも学びにつながり、信頼が揺らいでいけば正しい助言でも届きません。つまり、教育の基盤にはスキル以上に「目の前の学習者との信頼関係」が必要なのです。本ワークショップでは、まず日常の指導場面をふり返り、「指導者としての自分と学習者の関係はどう育っているか？」をテーマにグループで対話します。そのうえで、Educational Alliance（EA：教育同盟）という“関係性を見立てるレンズ”を紹介し、普段のフィードバックや指導を新たな視点で見直します。後半では、信頼関係がうまく築けなかった場面を取り上げ、EAの3要素と信頼構築のメカニズムを活用し、明日から実践できる改善策をデザインします。

**対象** 医療者教育に興味がある人、医療者教育に携わるすべての方。指導医と学習者の関係性に興味を持たれた方。

**定員** 30名程度

アソシエイトポイント： A 0.25

## IPEの新しい視座：IPSが教える専門職連携のヒント

下井俊典・諏訪さゆり・酒井郁子・孫佳苑・齊藤可紗（千葉大学）

本研修は、皆さんの専門職連携教育（IPE）、専門職連携実践（IPCP）の効果を最大化させることを目的とします。IPEを学んでも専門職連携（IP）がうまくいく場合と、そうでない場合があります。その違いは、他の職種について学ぶこと、協働の価値を認識すること、チームメンバーの共通目標を設定すること、協働を妨げる専門職間の障壁を打ち破ること、「専門職としての自分」と「他の職種と協働する自分」を両立させること、これらができるかどうかにあります。これらは近年、IP Socialization（IPS、専門職間の社会化）という言葉で整理されています。

本研修では、このIPSを手がかりに、参加者同士が対話しながら、IPSの視点をみなさんのIPEやIPCPにどう活かすかを一緒に考えていきます。IPE、IPCPをこれから導入しようとする方でも参加しやすく、自身の教育や実践に活かすヒントが得られる内容です。

**対象** IPEに携わっている・携わる予定の教育機関の先生や臨床現場の現任者

**定員** 30名

アソシエイトポイント： TL 0.25

## コミュニケーション・SDH教育に「やさしい日本語」を活用する

武田裕子・イ・ティンザ・キン（順天堂大学） 岩田一成（聖心女子大学） 新居みどり（NPO法人国際活動市民中心） 石川ひろの（帝京大学）  
岡崎史子（新潟大学）

「やさしい日本語」とは、相手に合わせて分かりやすく伝える日本語のことです。本WSでは外国人模擬患者とのロールプレイを通して「やさしい日本語」を体験し、教育への活用法について検討します。

日本に住む在留外国人は396万人に上ります(2025年6月現在)。外国人診療=英語と考えられがちですが、3/4の在留外国人が日常会話レベル以上の日本語を話します。一文を短くする、オノマトペ（擬音語・擬態語）を使わないなど、ちょっとしたコツで伝わりやすさが増します。実は「やさしい日本語」は、外国人だけでなく高齢者や子どもたち、言葉の理解や聴こえに困難を抱える障害者にも役立ちます。相手に合わせるためには、コミュニケーションの特性を理解し生活背景にも目を向ける必要があります。ことばの壁は医療アクセスを困難にします。医学教育モデル・コア・カリキュラムが求める健康の社会的決定要因（Social determinants of health: SDH）について、理解を深める教育となります。

**対象** 卒前・卒後の医学・医療者教育に携わる教員・指導者、特にコミュニケーション教育や英語授業、多職種間教育に関心のある方

**定員** 30名

アソシエイトポイント： TL 0.25

## 多様性を促進する医学科入試とは：英国とオランダの事例から学ぶ

大滝純司（東京医科大学） 鈴木康之（岐阜大学） 渡邊洋子（新潟大学） 恒川幸司（名古屋市立大学） 武田裕子（順天堂大学）  
西城卓也・野村理（MEDC） 平形道人（慶應義塾大学）

医学科入試に関する課題の一つである「教育格差による受験者の多様性の低下に関する懸念」について、冒頭で論点整理を行う。次に、日本国内で行われた調査研究結果を紹介し、教育格差が医学生が多様性に大きく影響している可能性を示す。つづいて参加者の問題意識をグループワークにより共有する。後半では、英国とオランダにおける教育格差対策としての医学科入試の改革について、2025年秋に行った訪問調査の成果を含めて報告する。英国では医師の構成を人口構成に近づけることを目指したWidening participation政策が進行中であり、オランダでは医学生の多様性を維持することを目的に医学科入試に抽選制が再導入された。これらの情報を共有したのちに、全体で質疑応答や意見交換を行う。このワークショップを通じて、医学科入試における多様性の課題とその対策についてより広い視野で検討することが可能になる。

**対象** 大学入試やIR関係者、高校教員、メディア関係者、医学教育研究者、医療者教育に興味がある人

**定員** 30名程度

アソシエイトポイント： A 0.25

## 患者の視点を取り入れた医療安全教育手法を体験しよう！

田中和美・岸美紀子・渡辺恵（群馬大学） 清水郁夫（千葉大学）

医療が高度化、細分化、複雑化されていく中で、より質の高い安全な医療の提供には、患者・家族をチームの一員と捉え、患者の意思、選好、信念を尊重し、共に医療を進めていく意識を持つことが不可欠である。

Patient Journey Mapping(PJM)とは、地域社会を含め様々な医療現場において起こる、一人の人間としての患者が経験する時間空間的な相互作用やケアの変遷を図示することである。これにより、患者の個人的な経験を中心に据え、患者経験を左右するキープロセスや、そこに潜むリスクを同定・可視化し、改善策を検討することが容易になる。同時に、ケアプロセスにどのような職種がどのように関わっているか、それぞれの職種の役割は何かを可視化することもでき、多職種連携の重要性について理解を深めることもできる。

本ワークショップでは、参加者のグループワークとしてPJMを実際に体験し、各施設での活用について検討する。

**対象** 職種を問わず医療安全教育・多職種連携教育に関心がある方

**定員** 40名

アソシエイトポイント：TL 0.25

## Step-by-Stepで学ぶ生成AI教材作成と、理論で深める新しい教育のカタチ

安原大生 海透優太（JCHO若狭高浜病院） 笠井大（千葉大学） 土井賢治（横浜市立みなと赤十字病院）

生成AIによる「効率化」とどまらず、教材に「双方向性」と「創造性」を付与し、次世代の教育を構築していく実践的プログラム。事前の専門知識はほぼ不要であり、Googleアカウントがあれば生成AIの初心者でも参加できる。

前半はStep-by-Stepで、NotebookLMによる資料の音声・動画・イラスト化や、Geminiを用いた簡単な双方向型アプリ作成を体験する。後半はPICRATモデル等の教育理論を踏まえ、体験したAI技術が教材作成にどのような変革をもたらすのかを掘り下げる。ツールの使い方だけでなく、双方向性や創造性を高める次世代の教育デザインについて実践的な議論を深める。

### 【要件】

- ・PC持参/タブレット非推奨（Win10/macOS12以降 ※推奨Win11/macOS13）
- ・ブラウザ：Google Chrome推奨、Googleアカウント（無料版可）
- ・会場無線LAN使用可能

**対象** 生成AIを用いた教材開発に関心のある医療系教育担当者（職種は問わない）

**定員** 30名

アソシエイトポイント：TL 0.25

## それは「学生の問題」か？— アンプロを生む教育環境と構造的課題を考える —

岡田英理子（東京科学大学） 岸美紀子（群馬大学） 高橋誠（北海道大学） 西屋克己（関西医科大学） 小松弘幸（宮崎大学）  
蓮沼直子（広島大学） 大槻真嗣（藤田医科大学） 長谷川仁志（秋田大学） 岡崎史子（新潟大学） 宮地由佳・西城卓也（MEDC）

全国の医学/医療者教育部門等で働く教職員にとって、大学や臨床実習の現場でみられるアンプロフェッショナルな行為への対応は、全国の共通した難題です。このテーマは、学生個人の態度や資質に焦点を当てて議論されがちで、各大学が個別に対応を模索してきましたが、十分な解決策に至らない状況もみられます。本ワークショップでは、“アンプロ”を「ひとごと」ではなく、「できごと」として捉え、人間はもとより、環境・評価・文化などが多層的に影響し合う教育システム上の出来事として捉え直すことを試みます。参加者は自大学の状況を共有し、アンプロ行為が生じる構造や支援の断絶点を可視化しながら、大学が包括的に果たし得る、評価・対応・判定・予防的環境づくり・コミュニケーション・カリキュラム設計などに関する多彩な役割について議論することを目的とします。

**対象** 医学/医療者教育部門に所属する教職員、その他関心のある方

**定員** 40名

アソシエイトポイント：ML 0.25

## 1 コマからできる授業設計—インストラクショナル・デザインを用いて—

石原慎・村岡千種(藤田医科大学) 浅田義和(自治医科大学) 万代康弘(東京慈恵会医科大学)

みなさんは、“学習者の実力が身につく「授業」、「研修」、「演習」をするにはどうしたらいいか”、“学習者にとって成長が実感できる教育をするにはどうしたらいいか”、“自己流ではない、理論を活用した教育をするにはどうしたらいいか”など考えたことはありませんか？

このワークショップでは、参加者がこれから行う、または行ってきた教育事例を、より良いものに改善し、次回の教育の場で実践できることを目指します。そして、学習活動の効果・効率・魅力を高めるInstructional Design: ID(インストラクショナルデザイン)等の学習理論を各自の持ち寄った教育事例を改善する過程で学ぶことができます。今回は授業の入口(誰に何を教えようとしているか)、出口(アウトカムと合致した確認となっているか)、学習方略についてIDの入門編として学びます。尚、本WSは限られた時間内での効果的・効率的な運営のため、事前課題を用意しています。研修当日は事前課題に取り組んでいることを前提としてグループワーク中心の活動を行います

**対象** 医療者教育に興味がある人

**定員** 32名

アソシエイトポイント: CD 0.25

## マインドフルネスで育むプロフェッショナリズム教育実践大会!

土屋静馬(昭和医科大学) 三好智子(京都大学) 三原弘(札幌医科大学) 毛利貴子(奈良県立医科大学)

本ワークショップはプロフェッショナリズム教育、とりわけセルフケアやレジリエンス育成に関心を持つ方、そしてマインドフルネスを教育に活かしたい方を主な対象とします。医療者が「自分を整えながら人を支える」力はますます重要視されていますが、実際の授業や研修でどのように教え、どう学生に伝えるかは多くの教育者が抱える共通の悩みです。本企画では各大学のリアルな取り組みを紹介しながら、その授業での工夫や課題について発表した後に、発表者が皆様の鋭い質問にお答えします。特に、海外で広がるマインドフルネスを活かしたWhole Person Care教育の考え方を、日本の文化や大人数授業にどう応用するかを率直に議論します。後半では、参加者自身が「自分ならどんなひとこまを作るか」を考え、グループで共有し形にします。これから挑戦する人も、既実践している人にも、新しい視点と勇気が得られる場になるはず。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

**対象** ①医療者教育でプロフェッショナリズム教育(PIF、セルフケア、レジリエンス等)を担当している、興味がある方  
②マインドフルネスのセルフケア、医療における実践に関心のある方

**定員** 30名

アソシエイトポイント: CD 0.25

### 参加登録方法

MEDCホームページよりお申込みください **MEDC** 🔍

**参加登録期間**

**2026年4月1日(水) ~ 20日(月)**

参加を希望される方は、上記期間内に参加登録をお願いします。各企画には定員を設けています。申込順にて受付いたしますので、ご了承ください。なお、当日参加は受付いたしません。

**参加費** 5,000円 (学部学生、東海国立大学機構 教職員・大学院生は無料)

**開催地** 国立オリンピック記念青少年総合センター  
(〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1)